

建学の精神		豊かな特性と、広く深い学識を持ち、世界的視野に立つ、心身ともに明るく健康的な紳士・淑女を養成する。					総合評価		
教育方針		建学の精神に基づき、時代の要請に対応し、現在社会に貢献でき得る人間育成に努める。 学を修め、礼節を重んじる心豊かな品位のある生徒の育成に努める。							
めざす子ども像		目標を高く掲げ、自ら考えて行動できる子ども。 自他の生き方を尊重し、互いを理解し合おうとする子ども							
学校教育目標		基礎的な知識・技能を身に付け、自ら考えて体験をしたり、表現したりする活動を通して、知識・技能を確実にしながら、主体的に学ぶ態度を身に付けさせていく。 また、礼節を重んじ、自らの品性を磨くとともに、他者の生き方・考え方を理解し、互いにより良い社会の構成員として成長しようとする意欲をもたせる。							
昨年度の成果と課題		本年度の教育目標			具体的目標				
前期課程から後期課程への進級に際して、学習に対する緊張感やや欠けるため、毎年のように一部の生徒に前期課程の学習内容が定着できていない者がいた。個別の指導等で学習内容の定着をはかる必要がある。		(1) 学習に専念する姿勢を育て、豊かな知性と教養を身に付けさせる。 (2) 高い目標をめざし、自ら考えて何ごとにも挑戦しようとする心を育てる。 (3) 自他を敬愛し、自ら進んで社会に貢献しようとする意欲を育てる。 (4) 礼節を重んじ、品位を養い、誠実で寛容な態度を育てる。 (5) 生命を尊び、自然を愛し、崇高なものに感動する心を育てる。			(1) 初心を忘れず、全力を尽くして学び続けようとする姿勢を身に付けさせる。 (2) 基礎・基本をきちんと身に付け、自ら考えて行動しようとする活動を励ます。 (3) 何ごとにも感謝の気持ちを忘れず、より良い社会を創ろうとする意欲を高める。 (4) 他者の生き方を尊重し、互いに理解し合い受け入れようとする姿勢を育てる。 (5) 感動する心を大切に、豊かな感受性と自己表現の能力を高める。			B	
具体的目標		具体的方策・評価指標		評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等		
教務部	学校教育目標達成を目指し、年間教育・行事計画を立案し、教育計画の円滑な推進を確保し、教育効果を上げる。	通常時間割及び特別時間割、定期考査時間割の作成・管理 年間教育計画及び月間教育計画の企画・立案・調整 カリキュラム教育課程の検討		教務部会・教科会議・主任会議・企画会議・職員会議・教育課程検討委員会による協議	A B B	各分掌と調整を行い、一定の成果を得た。さらに精密な調整を図る。	年間教育計画作成時に入試広報室との連携を密に行う。また、大学入試改革・新カリキュラムに向けて、探究活動の充実を図る。		
	学習計画達成のため、各分掌・各学年・各教科と協議し調整を図る。	弱点克服重点学習期間の講座の充実 定期考査及び追認考査の成績処理の迅速化 文理・科目選択の適正化及び教科書・副教材の適切な選択 シラバスの作成		教務部会・学年会議・教科会議・主任会議・企画会議・職員会議・学力向上推進委員会による協議	A A C			弱点克服学習重点期間では前期課程で一定の成果が出た。考査関係や文理・科目選択、教材購入関係については円滑に遂行された。	弱点克服学習重点期間や学習合宿のあり方について検討する。また、各教科主任に働きかけ、シラバスの内容充実を図る。
	教務関係の各業務を円滑に遂行する。	教務規程の管理・出欠統計・チャイム管理・奨学金関係・証明書関係・教員管理・学力学習状況調査関係・非常勤講師との連絡調整・教育実習関係・成績表彰・単位認定など		教務部員による連携・協議	B			教務部員の連携により、円滑に遂行された。	教務部員の連携をより深め、精密に詳細な役割分担を行う。
	一人一人に対して、将来を見据えて進路選択を進めていく。	生徒対象進路説明会、保護者対象進路説明会、各ホームルーム担任への進路情報の提供		担任による二者面談や三者面談、進路部による面談	A			中等5年において生徒対象説明会と保護者対象進路説明会を実施し、一定の成果を得た。	
生徒自身の進路に向けての情報を理解させる。	生徒対象進路説明会、保護者対象進路説明会、各ホームルーム担任への進路情報の提供及び各ホームルームへの進路情報の提供		担任による二者面談や三者面談、進路部による面談	A	中等5年において生徒対象説明会と保護者対象進路説明会を実施し、一定の成果を得た。				
生徒自身が進路決定に向けて自ら行動できるようにする。	各ホームルーム担任への進路情報の提供、各ホームルームへの進路情報		担任による二者面談や三者面談、進路部による面談	B	B	一部の生徒に対しては、主体的に行動するように指導しないと自分のこととして行動していない。	年間計画に基づいて、キャリア教育の推進を図り、生徒の自己の目標を出来るだけ早い機会に堅持させる。		
キャリア教育を通して望ましい勤労観や職業観を育成する。	キャリア教育を実施する時間を取り、各ホームルームで展開する。		生徒のレポートや発表	C		キャリア教育を実施する時間を十分取ることができていない。			
難関国立私立大、さらに医学部への進学実績を向上させる。	校内における講座を開講し成績を向上させる。		模試結果、進学実績	B		担当教員の努力により、一定の成果を得ているが、十分とは言えない。			
生徒部	基本的な生活習慣の確立	入室許可証・一覧表による遅刻指導 日直・週番による挨拶・一礼指導		前年度、前学期より減少した。 日直・週番日誌での確認。	B	全体として遅刻の数は減少傾向にあるが、時間ギリギリに登校する生徒がまだまだ多い。	HRでの10分前登校を呼びかけ、引き続き活動を継続する。		
	規範意識の醸成	春・秋の車内及び駅構内での登下校指導 全校集会毎の身だしなみチェック		実施することができた。 実施できたが、違反生徒が減少しているか。	B	集会時に実施することができたが、チェック時に注意してから改善する生徒が多い。	全校集会の1週前よりHRでアナウンスし、引き続き活動を継続する。		
	安全な学校生活	避難訓練の実施 登下校指導(朝の郵便局前、下校指導)		実施することができた。 実施することができた。不審者被害はなかったか。	B	行事等についてはすべて実施。居残り後は輪番で下校指導を実施できたが、部活動の日は、あまりできなかった。	下校指導は、クラブ顧問と連携して。安全教育では、自分が被害に遭かもしれないと考え行動できるように促す。		
	教育相談の充実	毎週火曜日のカウンセリング		実施することができた。	A		予定通り実施することができた。	引き続き活動を継続する。	
	図書室を機能させ、文化活動推進の中心とする	授業などでの図書室活用 決められた時間に開館し、利用者を増やす 偏りのない選書・図書の実践		月ごとの授業での利用を確認 開館日の運営、貸出図書数 月ごとの図書購入計画・実行	B B C	B	総合学習・調べ学習の充実 開館時間の管理・運営の徹底 購入できなかった	中学生、高校生が興味を持つ新規購入図書の実践を図る。校内におけるビブリオバトル等の主催行事を増やし、図書への興味関心を高める。	
保健美化部	自らの健康を管理させる	感染症にかからないための予防接種の遂行 手洗い・うがいの徹底(除菌剤など各階に配置)		感染症にかかった者の確認	B	特定の学年で数名発症。今後も、手洗い・うがい・予防接種を促していく。			
	生活習慣の徹底	ゴールデンウィーク前に全校集会で生徒へ生活習慣について講話		サーベイランス・保健室の利用状況の確認	A	連休後、長期に休む生徒はいなかった。			
	熱中症対策	ゴールデンウィーク前に全校集会で生徒へ熱中症対策について講話		サーベイランス・保健室の利用状況の確認	B	B	ピーク時でも、水分を持っていかなかった生徒がいたため、忘れ物扱いにすることも検討。	活動中の熱中症を防ぐために、顧問による事前事後の部員の体調確認、生徒自身による体調管理を徹底する。	
	体力向上・健康維持	昼休みにグラウンド・体育館の開放・新体力テスト		実施できたか、見回り確認 新体力テスト結果	B		特定の学年だけの活動が目立った。 年々各種目の数値が上がってきている。		
入試広報室	学校の知名度を向上させる。	パンフレット、ポスター、広報用看板、グッズなどの制作、ホームページの充実		学習塾への訪問回数、パンフレット等の配布数、ホームページ閲覧状況分析	B	地域により知名度の幅があるため、さらに地域を拡げたい。	魅力や特色ある教育内容の充実とその発信方法を考える。		
	各種広報イベントへの参加者を増やす。	ちらし制作やホームページでの告知		参加者数やアンケート分析	B	B	子どもや保護者の減少により参加者数は伸び悩んでいる。もっと活動を活性化させる必要がある。	各種イベントの企画・運営を小学生にとって魅力的なものになるように工夫する。	
人権・德育指導委員会	人権意識の向上を図る。とりわけ、差別やいじめを許さない心を育む。	身近なところから人権について考えていく。人権講演会や人権映画鑑賞会の開催。人権作文に取り組み。		人権ホームルームの複数回実施。人権講演会・人権映画鑑賞会の感想文。	B	B	人権教育への取組の重要性を鑑み、年間計画に基づいて適切に時間の確保を行う。	人権教育への取組の重要性を鑑み、年間計画に基づいて適切に時間の確保を行う。	
	自尊感情を高め、生きる力を育む。	時間をかけて互いを認め合う集団づくりを行う。		いじめアンケート	B		ケータイ・スマホによるSNSの適切な使い方が課題	ケータイ・スマホ安全講習会等の実施により、適切な使用法の指導を行う。	
渉外委員会	育友会活動を円滑に進め、各活動が学校教育活動に効果的のあるものとする。	総会の出席率を40%まで高める。 広報誌「聖観広場」の更なる充実を図る		目標数値達成に努力する。 内容についてのアンケート調査等による評価	B	B	集積率は31% 参加し、改善策の検討を行う。	出席増に繋がる企画の工夫を図る。 内容を更に充実させるために、行事等を積極的に取材する。	
	国語	知識・技能と思考・表現の力を育成する。		漢字検定や文章能力検定を利用し、語彙力を向上させ、要約や文章作成に対して苦手意識を持つことなく、積極的に取り組むことができる。	漢字検定、文章能力検定の合格率で評価する。	B	B	文章作成に苦手意識を持つ生徒が前期課程に多かった。	具体的にスキルステップでスケジュールを立て、合格率の向上を図る。
数学	基礎(知識・技能)を育成する。	早朝テストを隔週で実施し、基準の成績に満たない生徒に対して補講を行う。		模試の成績を活用し、本校生徒間で過年度の成績と比較評価する。	A		年間を通じて実行することができた。また、模試の成績も概ね向上した。		
	生徒の学習意欲を向上させる。	活動的な授業として、教え合いをさせる場を設ける。単に解法の伝達にならないように、どのように教えればよいかを考えられるように指導する。		各科目の授業において、目標達成の機会を設けることができたが、また生徒が意欲的に取り組むことができたかを生徒アンケートを活用し評価する。	B	B	授業内容によって差異があった。また、アンケートの実施に至らなかった。	数学を学ぶだけでなく、活用するおもしろさと難しさを体感できる授業を目指したい。あくまで、基本的な技能という土台のうえに能動的な考えが存在するよう理念のもと継続して教科指導に取り組むことは変わらない。そのうえでより工夫を凝らした教科指導を模索したい。	
	身に付けた知識・技能を活用しようとする意欲を育成する。	開数グラフソフトを活用し、軌跡が描く図形の様子を実際に確認する機会を設ける。		開数ソフトを活用した課題を提示し、生徒の達成できた程度により評価する。	C		限られた授業での活用のみとなった。また、課題の提示も不十分であった。		
	教員の指導力を向上させる。	今年度担当した授業において、カリキュラムの見直しを行い、教科指導に対する工夫された取り組みをまとめる。		教科会議を設け、情報の共有を行う。	B		教科会議を設け年間の振り返りはできたが、よりよい教科指導につながる具体策があまり提示できなかった。		
社会 地歴 公民	生徒の学習意欲を向上させる。	・理解しやすく魅力ある授業づくりに努める。 ・学力の定着・向上を目指し、学習方法と習慣を定着させる。		小テスト・課題の状況、定期テスト・模試の成績	B		・授業プリントや板書内容を工夫し、授業でのプロジェクトやバーボンの使用や、アクティブラーニングを実践するなど、理解しやすく魅力ある授業づくりを目指した。 ・教科内において、研究授業や相互授業参観の時間が十分に確保できなかった。	・研究授業や相互授業参観を通して、教科内での相互評価や改善点を指摘し、より一層の授業内容・指導力の向上をはかっていた。	
	社会に関心をもち、自らの生活と関連づけて考えさせる。	地歴・公民の授業を通じ、それぞれの科目の視点から社会の理解を深める。また、ニュース検定などの検定試験を活用し、社会についての知識や関心をもたせる。		小テスト・課題の状況、定期テスト・模試の成績、レポート、検定試験の状況、その他各種講座の開講状況	B	B	・選挙年齢の引き下げに対し、権原市の選挙管理委員会に依頼し、選挙の出陣授業を実施した。 ・「学校行事(体験の日)でいよいよ外部と連携し、生徒にとって有用な講座を開講し、社会に対する関心を高める。 ・これからのより一層外部と連携し、生徒にとって有用な講座を開講し、社会に対する関心を高める。 ・これからのより一層外部と連携し、生徒にとって有用な講座を開講し、社会に対する関心を高める。	・取組を授業と関連づけて実施し、生徒の関心・意欲を高める。 ・これからのより一層外部と連携し、生徒にとって有用な講座を開講し、社会に対する関心を高める。 ・これからのより一層外部と連携し、生徒にとって有用な講座を開講し、社会に対する関心を高める。	
理科	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学を学ぶ意義や楽しさを実感しながら、自然の事物・現象を自ら学ぶ姿勢を身に付ける。	観察や実験を通して、その目的を一人一人が明確に把握し、見直しをもつて観察、実験などを主体的に行うよう指導する。特に前期課程では、五感を使った実験・観察を重視し、技能の習得やレポートの作成方法を身に付ける。		実験・観察への取り組み姿勢、グループ等の発表内容、レポート課題内容、小テスト・定期考査の成績状況、教科会議による協議	A				
	科学の基本的な概念や原理・法則を理解し、自然の事物・現象について、体系的に理解を深め、知識、科学的な見方や考え方を、自然観を身に付ける。	1・2年生は基礎学力を定着させ、3年生からは、論理的に自然現象を理解することを目指す。「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」の3科目を体系的に学習する。中等4・5年生では一人ひとりの個性と将来への目標に合わせて学ぶことができるように、文理・理系によって履修内容を選択し、幅広い知識を体系的に身につけることを目指す。また、中等6年生では演習により、受験に対応できる実力をつけるための「センター対策演習」「入試演習」「入試対策講座」を行う。また、大学等と連携して、科学的に探究する取り組みを積極的に「行う」。		実験・観察・発表への取り組み姿勢、レポート課題、小テスト・定期考査・模試の成績状況、前期課程の体験の日(探究)との連携、大学等の見学や科学的な探究活動への参加状況、教科会議による協議	B		「物理」「化学」「生物」の各科目で連携・調整を行い、単元の実験・観察を遂行でき、技能習得やレポート作成のスキルアップ、科学的な知識、見方、考え方の育成等、一定の成果を得た。	通常の授業の中で、さらに探究的な活動を取り入れ、実験・観察を通して、アクティヴ・ラーニング的な活動を増やし、体験の日や大学見学などの学校行事とも連携させて、科学的な見方・考え方・考え方を身に付け、また、外部の科学的イベントへの参加も促したい。	
保健体育	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。	・各種の運動実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、その運動の特性や魅力に触れさせる。 ・運動やスポーツの必要性を学ぶとともに、ライフステージに応じた運動やスポーツの多様な楽しみ方や学び方について理解できるようにする。		・毎授業の取り組み状況 ・学期末の定期考査(年2回) ・体育大会(5月)	B		全体的に様々なスポーツについて、楽しみながら活動する姿が見られたが、個々では、種目の好き嫌いに応じて、取り組む姿勢や態度が違っていた。用具の準備や片付け、ゲームの審判など自ら進んで行うものが少ない。	自分が苦手だと感じている活動・種目の魅力を目指して目に見えるようにする。ほぼすべてのスポーツは、相手やチームメイトが居て、用具が必要で、審判や運営する人がいることを考えさせる。	
	健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。	・自己の状況に応じた、体力の向上を目的とした運動計画の立案に取り組ませる。 ・毎授業、体力作りのためのトレーニングを取り入れる。 ・様々なスポーツを通して、公正・公平な態度を育成する。 ・互いに協力し、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を育てる。			B				
英語	4技能を総合的に育成することを念頭に置き、教科書をただ読むだけでなく、自分の考えを言い、話す事を通じて発信することが可能となるよう育成する	4技能を総合的に指導していく。検定教科書、そして海外の4技能検定試験対策用の教科書を使い、1・2年ではディクテーション、シャドウイング、そして同時通訳シートを使い、基本的な英文をできるだけ吸収できるように指導する。 3・4年では検定教科書に加えて洋書も用いて、主に英文のパラグラフ構成について学んでいく。 5・6年では海外のテキストを使用し、世界規模で問題となっているトピックについて、情報をまとめ、深く考察し、自分の意見を述べるように指導する。 そしてその4技能の土台となる英文法の部分を前期課程の英語Aの授業で体系的に指導し、ラーニング教材の「すらら」で生徒は自分のレベルに応じた英文法の学習をすることができる。		主に各科目の定期テストを評価指標とする。科目によっては定期考査にリスニング試験も出題し、授業中にスピーキングのパフォーマンスシステムも実施する。	B	B	各技能を1年生から6年生までの6年間、それぞれのように伸ばしていくか、一貫したカリキュラムでできつつあり、それに適した評価体制もできている。	「すらら」での4技能検定試験対策や、スピーキングのパフォーマンステストをもう少し体系化していきたい。	